

令和6年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

温知学舎 世田谷区立上祖師谷中学校
校長 古川 恵樹

1 学習指導（授業）について

学校評価アンケートにおいて、生徒からは「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中でとっている」94%、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」96%という肯定的評価であり、昨年度より肯定的な評価は数ポイント上昇している。

一方保護者の肯定的評価はそれぞれ86%、74%に留まり、昨年度より数ポイント下降している項目もあった。

この結果を受け、今年度行った授業力向上への取組の成果として、生徒たちには教員が意図して行っている授業展開にて個人で考えをもち、その考えを広げるために協働的な学びが推進されていると考える。

一方、その状況を保護者が実感するまでには至っていない、という側面も見られた。

次年度は、温知学舎として継続的に行っている授業研究や校内における授業力向上プロジェクトを継続させるとともに、主体的、対話的で深い学びの授業展開を必要とする学習場面において、着実にその授業展開が行えるよう、さらに個々の教員の授業力向上を目指す。

また保護者には、授業の状況が「分からない」という回答の割合が多いことを鑑み、授業の状況の把握の機会の確保を行っていくことをポイントとして教育課程を進めていく。

具体的な方策の一つとしては、令和7年度は、振替休業日を取った土曜日授業において、6時間授業（給食有）を設定し、保護者の来校がしやすい状況で授業公開を積極的に行い、実際の授業展開等を見ていただく機会の確保等に努める。

また上記に加え、インクルーシブ教育の推進を図る第一歩として、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの工夫を行い、分かりやすい授業を追及していく。

2 生活指導について

学校評価アンケートにおいて、生徒からは「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している」について93%が肯定的な評価であり、昨年度より肯定的な評価は数ポイント上昇している。

その他の項目の評価を含め、大部分の生徒は規範意識をもつとともに、教職員の生徒指導について、理解し、行動できていると考える。以上より、今年度の指導方法等は概ね目標を達成できていると考える。

一方保護者の肯定的評価が70%、「分からない」との回答が約20%、否定的評価が約10%という結果であった。保護者には、上記の「学習指導（授業）について」と同様に、生徒指導の状況の把握の機会の確保が必要であると考えます。

次年度は、生徒については今年度に引き続き「なぜその行動等がいけないのか」「なぜこのルールがあるのか」等、生徒が教職員の一つ一つの指導を理解し、生徒自身を成長させることにつながる生徒指導を、生活指導部を中心に組織的に行っていく。

また、保護者には、本校の自慢の一つである生徒会役員を中心として行っている学校の自治活動を、学校ホームページ等を活用することにより、積極的に情報発信していく。

さらに「ルールメイキング」等、生徒会役員を中心に、校則等を生徒自身に考えさせる機会を設定できるよう、努めていく。

また特別に配慮を要する生徒については、今後も校内委員会による情報共有を密に図るとともに、スクールカウンセラー、学校包括支援員、生活サポーター、学生ボランティア、関係諸機関等との連携を強化し、きめ細かく丁寧な指導を継続していく。

3 学校行事について

生徒、保護者共に学校評価アンケートにおいて、「学校行事は楽しい」「学校行事は、子どもにとって楽しい」の評価は肯定的評価の割合が高かった。学級等において、生徒一人一人が自分の個性を基に、様

々な役割等を、自ら考え行動する等の行事に対する取り組みにより、生徒たちは達成感、充実感を得ていると考える。そしてそのことは、保護者も十分に見てとれていただくと考える。

今後も創意工夫を凝らした企画・運営を図り、生徒の学ぶ意欲や達成感の向上を図っていく。

4 進路指導（キャリア・未来デザイン教育）について

学校評価アンケートにおいて「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」について、生徒は81%が肯定的評価であった。一方保護者の評価では58%が肯定的評価であった。また、他の項目についても、全体的にキャリア教育の項目について保護者の肯定的な評価は約60%前後であった。

このような結果を受け、改善のためのポイントとして下記の2つのことを考える。

まず温知学舎として小中連携を行っている烏山小学校においても、令和6年度3月の学校便りの中で「生き方や将来のことについて考える授業をしている」が子供たち、保護者ともに「できていない」「分からない」といった回答が多かった、という記載があった点である。本校も「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある」が同様の結果になっている。このことを踏まえ、キャリア教育について、今一度、保護者にその内容、ねらい、取組、成果等をしっかり説明したり、学校ホームページ等で発信したりすることにより、保護者と共通理解を図りながら、キャリア教育を推進していく必要があると考える。

なおキャリア教育は、「社会の中で自分の役割を果たしながら『自分らしい生き方』を実現していく」ことができる力を身に付けることが大きなねらいであり、そのことを身に付けるために、本校では、具体的な取組として、職場調べ、職場体験及び上級学校の学習等がある。さらにそれ以外にも、学級の係活動、学校全体の委員会活動、ボランティア、平和学習等の取組の中で、自分の個性を知るとともに、自己の役割を考え、行動していくことが『自分らしい生き方』につながる学習となる。本校では、ほとんどの生徒がその一つ一つの取組の中で、学年が上がるとともに、成長している様子が伺えている。この成長を保護者に感じていただけていないのはとても残念であり、次年度は「キャリア・パスポート」の活用の工夫等をさらに充実させ、生徒たちのこの成長を、教員が生徒及び保護者と共有することに努めていきたい。

次に生徒たちと保護者との「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の肯定的評価の差についてである。生徒たちは、特別活動や総合的な学習の時間における「職業調べ」「職場体験」等のキャリア教育の学習において様々な情報を得て、上記の肯定的評価の割合となっているが、教員からの聞き取り等から、保護者の方はこのことに加え、進路の中の進学等に関する情報提供等について「分からない(26%)」等の回答になっている可能性があると考ええる。

進路指導の中の進学等に関する情報等は、生徒一人一人が『自分らしい生き方』を実現するための上級学校等の情報であり、それは全員違い、全体に関わること以外の生徒個々の必要な情報を、学校が安易に判断し、選んで生徒、保護者に発信することはとても「難しい」という現状がある。なぜなら、この情報は伝え方によっては、大きな誤解等が生まれてしまうこともあり、慎重に行わなければならないからである。

例えば次のようなことが過去にあった。ある教員が保護者の方に「この高校には〇〇さんが好きなことが部活としてあります」という情報提供を行った。あくまで進路指導の多くの情報の中の一つと考え、担当教員は生徒、保護者に伝えたが、後日「先生から進められたからその高校を選んだ」という内容になってしまった。

このことはすべてのケースに当てはまることではないが、このような点等が「難しい」と考えるポイントである。

この点を踏まえ、今後の対応として、上記等含め、様々なことに十分留意しながら、すべての生徒及び保護者に関係する(個々に関する情報以外)進路指導の中の進学等に関する有用な情報を、今まで以上に多く発信することに努めるとともに、各家庭においての情報収集の方法等への助言等を行い、生徒、保護者が進路を決定していけるように支援していきたいと考える。

5 部活動について

学校評価アンケートにおいて「部活動は楽しい」は生徒の評価では82%、保護者の評価では73%が肯定的評価であった。部活動は、自主的な参加であり、全員の生徒が行っているものではないが、活動している生徒は、勝敗や技能の向上だけではなく、人間関係の構築、自己有用感の向上等が図られていると考える。さらに異年齢の生徒が同じ目的に活動していく上で、様々な課題等が出てくる場面もあるが、それを解決していくことでさらなる成長が得られていると考える。

なお、全ての部活動に専門性がある教員を配置することは困難であるとともに、大変残念ではあるが、異動等により、やむを得ない状況により活動の継続ができなくなったり、指導内容等が変更を余儀なくさ

れたりすることについては御理解をいただきたいと考える。また今後、土、日曜日の活動については、生徒と教職員の健康面を考え、活動方法等を検討していかなければならないと考える。

6 学校運営について

学校評価アンケートにおいて「学校生活は、楽しい」「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい」については生徒、保護者それぞれ90%、80%が肯定的評価であった。また、生徒からは「学校生活は、達成感がある」も81%が肯定的評価であった。

日ごろの授業に加え、体験学習、行事、部活動等を総合的に鑑み、このような評価となったと考える。「学校が楽しい」ということは、学校生活が充実していると捉えるとともに、これは、本校が今後も一番大切にしたい項目である。次年度も引き続き、授業の質の向上を図るとともに、体験学習、行事等を充実させていく。

一方「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の保護者の肯定的評価は62%であった。このことについては、学校において多くの指導を行っているため、最上位の指導の重点が明確化されていなかったと考える。今後は、学校ホームページ等を活用し、最上位の指導の重点（令和7年度は「認知能力と非認知能力をバランスよく身に付けさせる」）を明確化し、周知するとともに、様々な日頃の生徒の活動場面において、それぞれの活動のねらい等を分かりやすく伝えていく工夫に努めていきたい。

7 教職員（先生）について

学校評価アンケートにおいて「先生たちは、生徒に分かりやすく指導している」の評価（生徒）では92%が肯定的評価であった。「本校は、丁寧に指導している」の評価（保護者）では73%が肯定的評価であった。また、保護者の回答の14%は「分からない」という評価であった。

このことについて、多くの生徒は教員の指導について、理解し、授業や学校生活を送っていることが分かった。逆に「分からない」という回答の保護者の方々には、今までにも記載しているが、実際の授業等を見ていただく機会の確保を模索していかなければならないと考える。

次年度からは原則土曜日授業がなくなるため、別の方法を模索し、年間1回でも実際の授業の様子を見ていただける機会の確保に努めたい。

また、「先生たちは、生徒が相談しやすい」「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」という項目については肯定的評価が生徒、保護者とも約70%であった。昨今、教員の様々な職務の増加により、多忙化となり、教員が生徒と相談できる放課後の時間等の確保が難しくなっている現状がある。さらに様々なことにより、教員が生徒と「二人きり」で相談できる体制が取りにくい状況もある。このようなことも、この評価結果の一つの要因と考える。

しかし、相談できる体制を構築していくことは、生徒たちが学校に安心して登校できるためにとっても大事なことである。対応策として、今まで行ってきた学校生活アンケートに加え、昼休み等を活用した二者面談、ICT機器を活用した相談体制（教員が単独で行わない等を留意する）、スクールカウンセラーと連携した相談体制の工夫等、次年度この課題に対して取組を構築したいと考える。

また今まで行ってきた学生ボランティア等の採用をさらに推進するとともに、特別支援コーディネーターを中心にインクルーシブ教育支援員、特別支援教室専門員等の多くのスタッフの活用を推進するとともに、組織的に、相談体制の充実や個別最適な学び等を展開できるよう努めていく。

8 広報活動・情報提供について

学校評価アンケートにおいて、保護者から「学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」は85%の肯定的評価は一定の評価は得られている。今年度も学校ホームページやすぐーの活用により、丁寧な広報活動ができたと考える。

特に、学校ホームページの更新回数、更新方法等に工夫改善したことにより、1日の閲覧数が1000回を余裕で超える日も多々あった。保護者からは公開授業などを見ることができないため、日々の授業の様子を掲載していることで学校の様子を知ることができた、というお話をいただいた。

今後も積極的に情報公開に努め、学校の教育活動を広く地域社会に発信していく。

9 地域等との連携について

9月に行われた地域との「避難所運営訓練」は、町会代表者の方々と共に1年生全員が上祖師谷まちづくりセンター職員の説明を受け、発災時に中学生としての力を発揮するために必要な経験をするとともに、地域の一員としての自覚をすることができた。

その他にも「上祖師谷中学校ボランティアビブス」を着用し、生徒は様々なボランティア活動に参加し、自分たちの力を地域等で発揮した。その主体的な行動は、学校生活で培ったものを実際の地域社会への貢献につなげられていた。

さらに、温知学舎として連携を図っている烏山小小学校と合同で行っているあいさつ運動において、これから地域の力となっていく小学生に、中学生としての背中を立派に見せられたと考える。

今後は、教員の働き改革を推進するため、学校運営委員会等の協力を得ながら、地域等から高い評価を得ているボランティア活動に生徒を参加させ、生徒たちの力を地域等の活性化の一助とするとともに、郷土愛等をさらに育てていくことに努めていく。

10 学校の安全性について

学校評価アンケートにおいて、「本校は、子供にとって安全である」は72%、「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」は85%が保護者からの肯定的評価であった。また地域からの評価で「学校は、安心安全な学校づくりを進めている」が88%の肯定的評価を受けた。

例年とほぼ変わらぬ結果であったが、今年度も、大きなけが、事故等なく終えることができたことから、概ね指導の目標は達成できたと考える。次年度も学校の安全性をしっかりと確保していきたい。

また、令和7年度も「校庭の土の入れ替え」、「校庭東及び北側のフェンスの改修」が続くが、引き続き工事期間中の生徒の学校生活への影響を最小限に抑えるよう運営していく。

11 保護者・生徒自身のことについて

学校評価アンケートにおいて、生徒の学校生活に関する自己評価は高く、本校生徒の規範意識は極めて高いと言える。保護者についても「学校からの連絡文書はよく見ている」の肯定的評価が高く、背景には、「すぐーる」、「ロイロノート」、「学校ホームページ」等による情報の発信が挙げられる。

しかしながら、保護者のアンケートの回答において「分からない」という回答が随所に見られている。授業公開等において、生徒の学習等の発表する機会等を意図的、計画的に増やし、保護者に、できる限り学校に来校していただき、実際の生徒の様子を見る機会を多くすることにより、本校の教育活動が「分からない」という割合の高い現状を打開していきたいと考える。